

# 「新しい理科教育の展望を考える」

第5回全国大会 2003年12月27日・28日

主催：NPO 法人理科カリキュラムを考える会

共催： 東京理科大学大学院理学研究科理数教育専攻

会場 東京理科大学神楽坂校舎森戸記念館(27日)・1号館(28日)

## 全国大会について

- ◆理科教育に携わる方に広く理科カリキュラムを考える場をつくります。
- ◆急速に変化している理科教育の環境について、教育行政、教育社会学、数学教育、教師教育の立場の方から、講演をいただきます。
- ◆各地で活動している新しいカリキュラムを考える研究者・研究グループに、研究内容や活動状況を発表していただきます。また、参加した皆さんの活動が連携を取れるような仕組み作りを考えています。
- ◆この大会を積み重ね、2006年にはこの活動の区切りとなるような、報告のとりまとめを行いたいと考えています。

## プログラム

### 第1日 (12月27日) 13:00～18:00

#### ◆講演

「知識社会における学力形成と教科教育の課題」

—「ゆとり教育」政策と「学力重視」政策の矛盾のなかで—

藤田英典（国際基督教大学・元 東京大学・教育改革国民会議委員）

#### ◆講演「近未来のカリキュラム（私案）」— 授業時数と数学科カリキュラム—

澤田利夫氏（東京理科大学）

#### ◆報告「理科の現場からのレポート」

岡村幸保氏（都内中学校教諭）

#### ◆報告「総選挙中、理科教育について各政党アンケート」

大木勇人（フリー編集者）

#### ◆パネルディスカッション

講演者＋滝川洋二氏

## 第2日(12月28日) 9:00~17:00

### ◆カリキュラム開発グループからの報告・討論

- ◆講演「教師教育について――学校教育の推進力は『教師の学び』」  
伊藤稔氏(東京理科大学)

### ◆分科会

- 科学的リテラシーの構成 / 授業時間時間数について
- 新しい単元と整理する単元 / 高校理科の履修選択の偏りとリテラシーなど

### ◆全体討議

### ◆カリキュラム開発グループからの報告・討論

#### ●活動報告、事例紹介(1) 座長:三石初雄

「福島探究活動の研究」

佐々木清

「富山Gの活動」

市瀬和義

#### ●活動報告、事例紹介(2) 座長:大野栄三

「小・中・高・大の教員が協力してつくる理科のカリキュラム」・・・静力学を中心に

兵頭俊夫

「検定外教科書をどう使うか」

辻本昭彦

#### ●活動報告、事例紹介(3)

「小中高の科学リテラシー理科教育の目的、評価、単元の構成などの検討」

科学カリキュラム開発プロジェクト(R-プロジェクト) 石渡正志 他

### ◆講演「教師教育について――学校教育の推進力は『教師の学び』」

伊藤稔氏(東京理科大学)

### ◆分科会「理科カリキュラムについての課題別討議」

(テーマ:科学的リテラシーの構成、授業時間時間数について、  
新しい単元と整理する単元、高校理科の履修選択の偏りとリテラシー)

#### ●「高校の理科でリテラシーを考える」座長:原康夫

レポート:埼玉県立三郷工業技術高校 鈴木文二氏

#### ●「小学校、中学校理科をどうするか、そのサポートを考える」座長:市瀬

レポート:昭和女子大学附属昭和小学校 白敷哲久氏

#### ●「新しい教材、新しい単元をどう組み入れるか」座長:江尻

「遺伝子(DNA)教育の重要性と小・中・高等学校における授業の可能性」

小林興(学芸大学)

「ITを活用したリアルタイム力学教育の新展開ー未来の新しい理科カリキュラムにむけてー」

小林昭三氏 新潟大

### ◆全体討議 司会:林衛